

福岡市政担当記者各位

令和 4年9月12日

PHR福岡プロジェクト ～市民が自身の健康データを活用できる社会へ～

福岡市と国立大学法人九州大学、及び株式会社電通は、PHR (Personal Health Record) の社会実装を目指し、活用事例の創出に取り組むことに合意し、本日、協定を締結いたしましたので、お知らせいたします。(別紙 3者共同リリース資料参照)

健康・医療データを安全かつ容易に活用できるようにし、自らの健康管理に活かすとともに、情報共有先を自ら選択し、一人ひとりに合ったサポートを受けやすくすることが目的です。

今年度は「PHRアプリを活用した服薬指導」の実証に取り組めます(概要別紙)。また、今後、さらなる活用事例の創出を図り、市民の皆さまが自身の健康・医療データを保有し健康管理に活かすことのできる社会の実現を目指します。

なお、本取り組みは、厚生労働省が採用した国際標準規格 (HL7 FHIR) に準拠して実施する事業として日本初となります。

【本取り組みの特徴】

○マイナポータルと連携

→ 健診・医療データなどを一括管理でき、いつでも簡単にご自身の健康情報を閲覧できます。

○プッシュ型で市民の健康行動をサポート

→ 薬の飲み忘れを防止するアラートなど、効果的な介入を行うことが可能です。

○データ・ポータビリティに対応

→ 引越しにより転院しても、ご自身の病歴や服薬状況などを、主治医に提供できます。

アプリ画面 (イメージ)



【協定における主な役割】

- 福岡市：市民への広報、関係者調整
- 九州大学：情報の利活用管理、知見の提供
- 電通：ユースケースの開発、事業の推進

ピ・エフ・アール PHRとは

パーソナルヘルスレコード

Personal Health Recordの頭文字をとった略語で、個人の健康・医療に関する情報のことを指しています。

個人の健康・医療に関する情報を、一人ひとりが生涯にわたって管理・活用することによって、自己の健康状態に合った優良なサービスの提供を受けることができることを目指しています。

【問い合わせ先】

福祉局総務企画部政策推進課

担当：奥田

TEL：092-711-4811

FAX：092-733-5587

「PHRアプリを活用した服薬指導」実証事業について

■取組みの概要（予定）

○ 実証期間

令和4年12月～令和5年3月

○ 内容

PHRアプリを薬局を通じて市民（薬局利用者）に提供し、九州大学病院の医師と、薬局の薬剤師が一体となって服薬指導を実施し、生活習慣病の重症化予防に取り組む。

- ・九州大学病院等に通院する患者約60名が実証に協力。
- ・アプリを活用し、服薬履歴を本人が入力、医師・かかりつけ薬局・家族と共有。飲み忘れアラート通知も活用し、タイムリーで適切なサポートを実現。

2021年6月4日の服薬状況

お薬をのんだら「飲んだ」をタップしてください。家族があなたの服薬状況を確認することができます。

全部飲んだ

朝（食前）

食直前 ミグリトール（50mg）1錠

飲んだ 飲んでない

朝（食後）

一包化

食後 ピタバステン（2mg）1錠

食後 エクメットHD 1錠

飲んだ 飲んでない

福岡 太郎（フクオカ タロウ） 男性 1973年5月6日生（48歳）

飲み忘れ傾向あり

2021年6月

日 月 火 水 木 金 土

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28 29 30 31

2021/06/30 博多薬局 調剤薬

2021/06/01 博多薬局 調剤薬

調剤日 博多薬局

調剤薬局 博多薬局

薬剤師

服用メモ（患者記入情報）

日本橋サクリニク 診療料なし

内服：1日3回 朝・昼・夕食後にお飲み下さい 30日分

エビリファイ錠1mg 6錠

内服：1日1回夕食後にお飲み下さい 30日分

レクサプロ錠1.0mg 1錠

飲食物）セイヨウオトギリソウ含有食品

【相互作用等】次の薬剤と一緒に服用すると相互作用がでることがあります。服用中に体調の変化があったらすぐに受診してください。（エビリファイ錠1mg）（レクサプロ錠1.0mg）

注意

お薬の飲み忘れあり

残薬状況について確認しました。 6月1日 15:32

○ 参考（服薬遵守率）

入院患者の自宅での服薬状況を調査した結果、服薬順守率（医師の指示どおりに薬を服用する割合）は26.0%。

15歳未満では50.8%であるが、15～64歳で34.5%、65～75歳で26.4%、75歳以上では23.8%と年齢が高くなるほど低下。

（大阪大谷大学薬学部実践医療薬学講座 令和2年度調査）

福岡市と九州大学と電通、PHR社会実装の共働事業に関する協定を締結 - 医療・健康データを自己管理できる社会実現を目指し 日本初の「PHR福岡プロジェクト」開始 -

福岡市（市長：高島 宗一郎）と、国立大学法人九州大学（福岡県福岡市、総長：石橋 達朗、以下「九州大学」）、および株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役社長：樽谷 典洋、以下「電通」）は、PHR^{*1}社会実装の共働事業に関する協定（以下「本協定」）を本日締結しました。本協定に基づき3者は、市民がシステムの種類に関係なく医療・健康データを自己管理できる社会の実現を目指す「PHR福岡プロジェクト」（以下「本プロジェクト」）を開始します。

昨今、超少子高齢社会による「2025年問題」に対し、産官学各々の立場から健康医療をテーマに対策が進んでいます。九州大学と電通は2021年7月に産学連携協定を締結し、次世代医療データプラットフォームの社会実装に向けた取り組みを進めてきました。

より快適で便利な医療・健康サービスの提供を実現するためには、データを管理する組織やシステムの種類にかかわらずデータの相互連携が必要です。しかし、日本の医療機関では電子カルテが浸透しデジタル化が進む一方で、医療機関同士のデータ連携は課題となっています。また、健康診断結果や服薬履歴、IoT機器やウェアラブルデバイスから取得できるライフログ（生活データ）等の、健康データ連携も対処すべき課題です。そこでこれらの課題を解決し、市民がシステムの種類に関係なく医療・健康データを自己管理できる社会の実現を目標に、本プロジェクトを開始します。

本プロジェクトは、システムの種類に関係なくデータ連携を可能とする医療データの取り扱いに関する国際標準規格・HL7 FHIR^{*2}に準拠したPHR基盤を活用した日本初の取り組み^{*3}です。各医療機関が所有する医療データ、または特定健診データ、そして市民が所有する健康データを統合処理し、市民が専用のスマートフォンアプリ「Tsunagu PHR」を使って各種データを自己管理できる仕組みを提供します。

なお、この仕組みを活用した市民の体調管理をサポートする実証実験として、2022年12月から「生活習慣病患者の服薬履歴をもとにした医師と薬剤師による服薬指導の取り組み」を実施します。

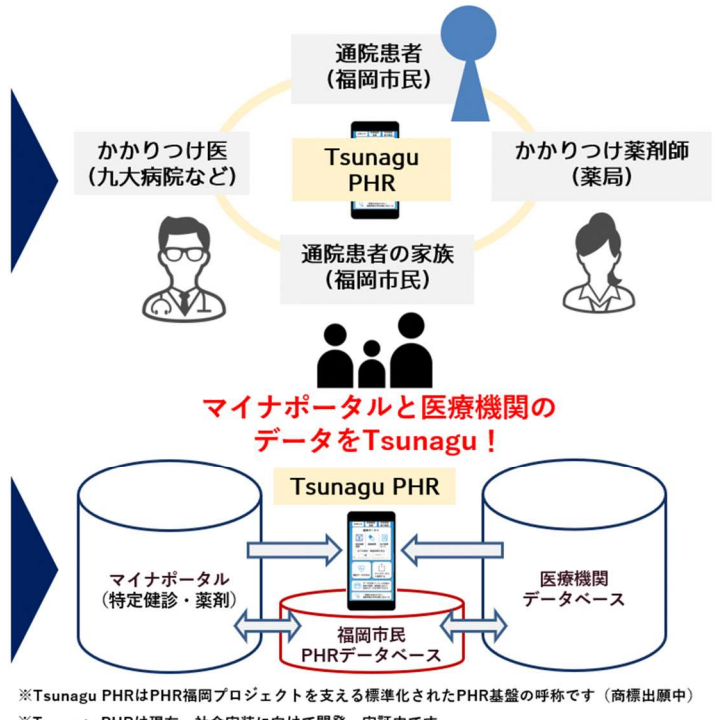
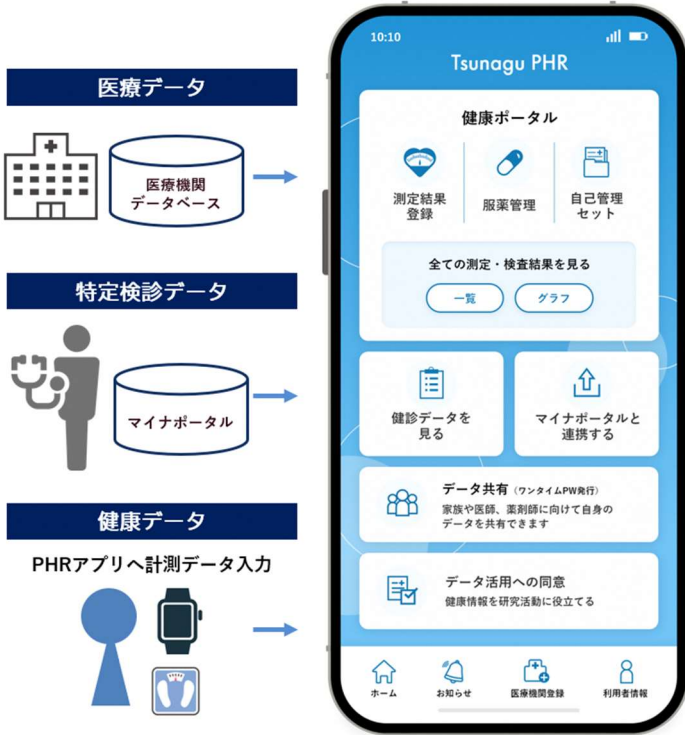
本協定において、福岡市は実証環境の調整や広報、九州大学はPHR利活用の管理および知見の提供、電通はプロジェクトの推進およびユースケース（活用事例）の開発を担当します。

3者は、本協定における取り組みを通じてPHRの社会実装を推進し、PHR基盤を活用した市民サービスの向上を目指してまいります。

<実証実験に使用するスマートフォンアプリ「Tsunagu PHR」のイメージ>

HL7 FHIRを準拠したPHR基盤を活用した情報連携

通院患者・かかりつけ医・かかりつけ薬剤師と患者の家族をTsunagu！



- ※1 「PHR」とはPersonal Health Recordの略称で、個人が自ら保有し利活用する健康医療データを意味します。なお、データは個人情報保護関連法および情報セキュリティガイドライン (3省2ガイドライン) の法規則・指針に則り、適切に活用・共有します。
- ※2 「HL7 FHIR」は米国のHL7協会が開発した医療情報交換のための新しい標準仕様 (規格) で、厚生労働省も推進しています。
- ※3 3者調べ。HL7 FHIRに準拠したPHR基盤を活用した情報連携による実証実験は日本初となります。

(参考)

次世代医療データプラットフォーム推進に向けて九州大学と電通が産学連携協定 (2021年7月20日発表)
<https://www.dentsu.co.jp/news/release/2021/0720-010410.html>

以上

【リリースに関する問い合わせ先】

- 実証環境の調整、広報に関すること
福岡市 福祉局政策推進課 奥田
Email : seisaku.PWB@city.fukuoka.lg.jp
- PHR利活用の管理、知見の活用に関すること
国立大学法人九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター 山下、中島
Email : phr-fukprj@med.kyushu-u.ac.jp
- プロジェクトの推進、ユースケースの開発に関すること
株式会社電通 広報オフィス 広報部 松島、陳、李
Email : koho@dentsu.co.jp